

トンネルの構成について知る

『建設中の現場で工事状況を確認、構造の知識を習得し、今後の維持管理に繋がります』

いわき地区では、様々な場所で大きな工事が行われており、こうしたインフラを、完成後適切に管理していく必要があります。そこで、**インフラ管理を担う県担当者を対象に、現場でトンネルの構成を確認し、工事の手順などを学びました。**



現場は、『**才鉢トンネル**』（県道14号線（いわき石川線）いわき市田人町内）で、過去に道路沿いの斜面が幾度も崩落しているため、バイパス工事を行っています。



トンネルは、「掘る」⇒「補強する」⇒「浸み出る水を流す」を1サイクルで掘り進めます。**普段見ることができないトンネル内部の構成を改めて確認し、どのような方法で補強しているかなどを習得しました。**



ただ今、舗装工事の真っ最中。**コンクリートはアスファルトに比べ硬くて丈夫な特徴があり、スペースが限られるトンネル内では、維持管理工事の回数が少なくなるコンクリートが使われています。**



安全かつ安心して利用できるよう、舗装の品質を厳格に管理しながら工事を行っていることを、改めて認識しました。



参加者からは、「構造物の規模に限らず、繊細な管理をしていて驚いた」「トンネルを利用する際は、意識して観察するようにしたい」などの感想が寄せられました。今回の経験を、県民の皆さんの安心・安全のため、管理に活かしてまいります!!

